

塑性加工の総合専門誌

プレス技術

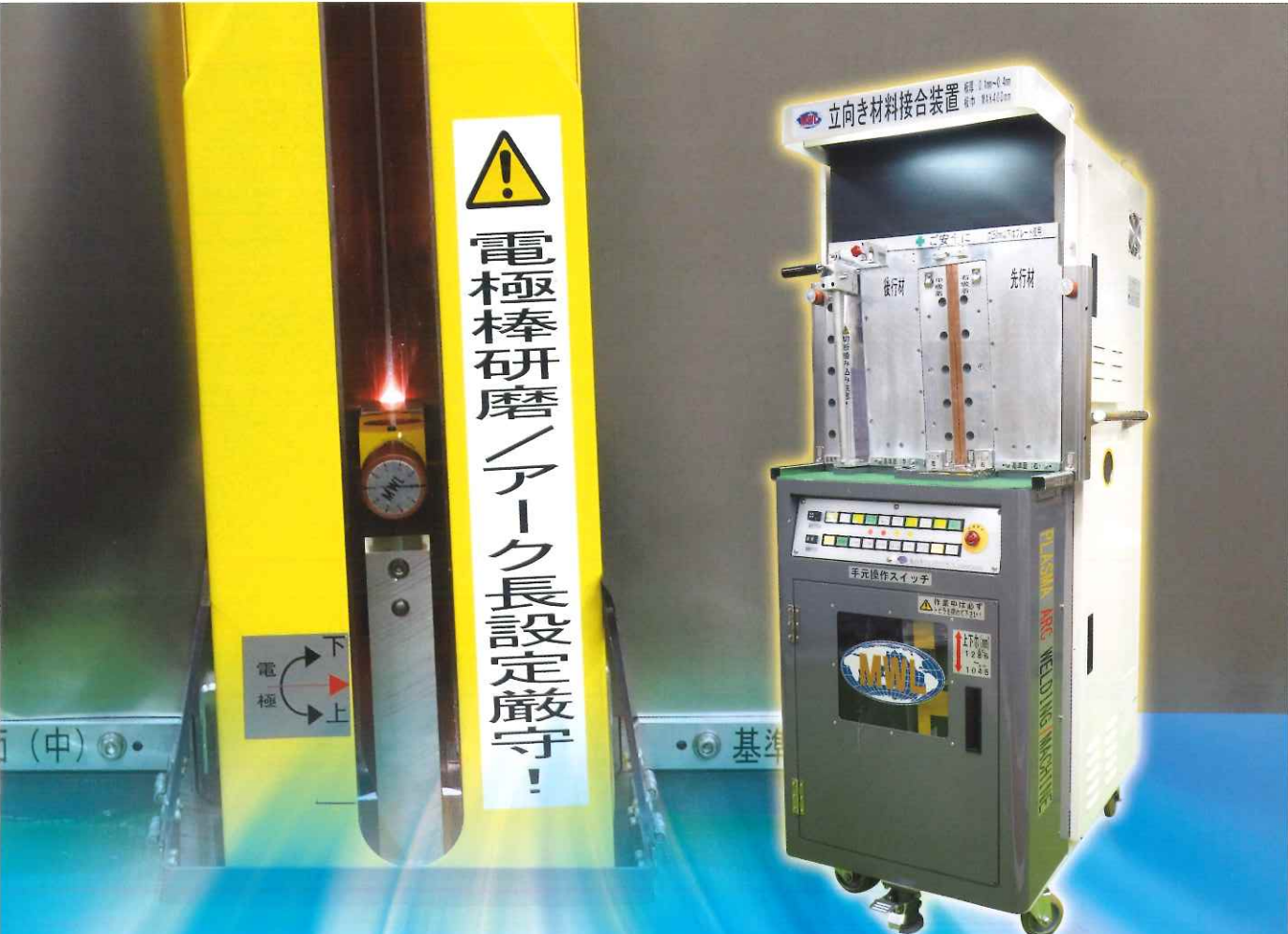
7

2018
Vol.56
No.8

PRESS WORKING

特集 進化する絞り加工技術～高付加価値化への新たな視点

巻頭インタビュー (株)クボテック 代表取締役社長 窪嶋竜一氏「分電盤の総合メーカーとして板金加工をコア技術に成長分野への取り組みを強化する」
好評連載 プレス作業を改善する電気・空圧制御の基礎知識／本気で! JAPANモノづくり戦略



立向き材料突合せ接合装置 MFW-400FTV

フープウェルダー400mm幅対応タイプ



株式会社 ムラタ溶研



SUS 0.1mm / SUS黒色(電解発色) 0.2mm



SUSヘアライン / SUS 0.15mm / 0.3mm

第32回竹内記念・ニュー型研サロン 異業種を取り込む最新コラボレーションの手法 など、新たな塑性加工メーカーの動向

竹内型材研究所

(株)竹内型材研究所（神奈川県伊勢原市：内山真司社長：0463-93-7771）は「第32回竹内記念・ニュー型研サロン」を5月19日に東京都港区の日立金属・高輪和彊館で開催した。同サロンは竹内型材研究所が主催していた型材研究会から続く親睦団体の勉強会。今回は日進精機(株)の伊藤敬生社長、元(株)能率機械製作所の大山秀夫氏、能率機械製作所の新野真吾設計主任、(株)ブルー・スター R&D 柴野桂英会長がそれぞれ講演した。

まず伊藤社長が「海外展開が早かった当社は、今も、海外の、そして異業種の企業とのコラボで、様々な「新領域」に挑戦中です。その事例をご紹介！！」と題して講演。1957年に精密プレス金型メーカーとして発足して以来、金型だけではなく独自のパイプベンダーの開発や、その普及、また特にタイトルにもあるさまざまな異業種とのコラボレーションにより開拓した新事業やプロジェクトの具体例を紹介した。たとえばIT業界とのコラボレーションとして、同社は介護サービスのフリックケアと共に、プレス機械に音センサを取り付けることで金型の異常をプレス音から検知する遠隔監視サービスの提供を開始。熟練職人の「耳」を低コストで提供する仕組みだ。伊藤社長は「コラボレーションで自社の殻を破り、可能性を広げられ、さまざまなノウハウを蓄積できる。しかしその分、各社員のコミュニケーション能力は高いものが求められる。人材確保が難しい」と、コラボレーションの利点と、それを運営していく上での人材の重要性も合わせて解説した。

続いて大山氏と新野氏が「能率機械製作所という会社は、何をやってきたのか？？？そして今、何を狙っているのか？？？（その3）」と題して講演。同社

「電池缶用トランスファプレス」が内径公差0.01mm、底面、側壁のR均一、円筒外面が均一などの高精度な製品を自動で加工する様子やLEMの材料供給装置、「NCジグザグロールフィード」が、ジグザグに材料を送ることで2列で抜き加工が可能となり、材料利用率が大幅にアップした事例などを動画で解説。高精度になおかつ高速で加工するノウハウを具体的に紹介した。

最後に柴野氏が「脅威のキャビティ破壊！～超音波バリ取り洗浄はこうして誕生、そして更なる進化へ～」と題して講演。従来は洗浄に使用される超音波を「バリ取り」に使用できる独自のバリ取り機とそのメカニズムを紹介。超音波によるバリ取りは水で行うため、有害物質は発生せず、またさまざまな形状・サイズのものでも対応ができる。「高精度微細部品のバリ取りに活用ができる。機械の小型化にも努めており、さらなる拡大が期待できる。また最近では研磨もある程度は可能であることもわかり、商品化ができた。まだまだ幅はひろがる」と柴野会長は抱負を語った。

